

特別展

「没後20年 佐々木裕久展

—闇を研ぐ、想いが舞う—

2022年11月19日(土)～2023(令和5)年2月5日(日)

2002(平成14)年に病により60歳で亡くなった、日本画家・佐々木裕久の画業をご覧いただく展覧会です。今回は佐々木裕久が少年時代を過ごしたゆかりの地・仙北市角館町の平福記念美術館から49点の作品を、ご遺族からはスケッチや装丁を手がけた書籍などをお借りして展示を構成しました。当館で所蔵する12点の作品を含めて、初期から晩年に至る創作の軌跡をご紹介しますという流れです。

黒という色彩、そして自らが編み出した色を研ぎ出すという表現にこだわり、数多くの作品を生み出した佐々木裕久。天地創造をテーマに生命の有り様を問ひかけるその作風は、モチーフこそ変化してゆきましたが終始一貫しており、見る人に壮大なスケールとブレない芯の強さを感じさせてくれます。没後20年が経ち、佐々木の作品を初めて見たという人たちも多かったのですが、その魅力は十分に伝わっていたようでした。

(担当:木村・鈴木秀)

ギャラリートーク



Topics

令和4年度 セカンドスクールの利用のご紹介

- | | | | |
|--|--|---|--|
| ●能代市
能代南中学校 | 太田北小学校
中仙中学校 | 雄勝小学校
●雄勝郡
西馬音内小学校
三輪小学校
羽後明成小学校
高瀬小学校 | 大曲支援学校
せんぼく校中学部
横手支援学校高等部
横手支援学校中学部
横手支援学校小学部
稲川支援学校高等部 |
| ●男鹿市
船川第一小学校
脇本第一小学校 | ●仙北市
白岩小学校
●横手市
浅舞小学校
雄物川小学校
大雄小学校
横手南中学校
横手北中学校
増田中学校 | ●高等学校
増田高等学校
横手高等学校
横手城南高等学校 | ●幼稚園・保育園
認定こども園 こひつじ |
| ●秋田市
下浜小学校 | ●湯沢市
山田小学校 | ●特別支援学校
栗田支援学校高等部
栗田支援学校中等部 | のべ37団体、828人
(3月27日現在) |
| ●大仙市
大川西根小学校
横堀小学校
太田東小学校
太田南小学校 | | | |

Report

下半期実施 教室・講座一覽

- ◆美術館教室
「日本画教室 一好きな植物を描こう」……9/10、11(2日間連続)
講師:大関智子さん(秋田公立美術大学助教)
「版画教室 ドライポイントで銅版画に挑戦!」……10/22、23(各1日)
講師:伊藤由美子さん(版画家)
- ◆みんなの教室
「新年に願いをこめて(絵馬・羽子板)」講師:当館学芸主事……12/4
- ◆きつずあーと
「ねんどランドであそぼう」 講師:当館学芸主事……9/4



◆「近藤美穂子 ピアノコンサート 奏 ~東西の調べ~」…9/25
ピアニスト・近藤美穂子さんをお迎えし、ミュージアムコンサートを開催しました。当日は特別展「秋田蘭画の世界」の会期中ということもあり、東西文化の融合ともいえる秋田蘭画にちなんだ選曲、J.S.バッハ フランス組曲第6番ホ長調ジグ、武満徹 ピアノのためのロマンス、他3曲で演奏していただきました。爽やかな秋晴れのもとホールに響く近藤さんの調べに、会場にお越しの129名一同が酔いしれました。

2023年上半期実施予定事業一覽

- 特別展 「縄文 小川忠博写真展」…4/22～6/30
「皇室の名宝と秋田～三の丸尚蔵館 収藏品展～」…7/8～9/3
「奇想天外×大胆不敵 浮世絵師 歌川国芳展」…9/9～11/5
- コレクション展 第1期 「樹を描く 木で創る」…4/12～7/9
第2期 「キンビ・版画セレクション」…7/12～10/9
- 館外展示 出前美術展(会場:能代エナジウムパーク)…8/26～9/10
- ふれんどリー
ギャラリー展示 「草薙裕写真展」(仮)…6/25～7/30
「大関智子日本画展」(仮)…9月頃を予定
- 美術館教室
(中学生以上一般) 「写真教室」(撮影編、プリント編 各1日) ……7/1、2
講師:草薙裕さん(秋田公立美術大学助教)
「日本画教室」…9/30、10/1
講師:大関智子さん(秋田公立美術大学助教)
- みんなの教室
(小学生以上一般) 「カラーインクをつかってみよう!!」…5/14
「木の工作教室」(木の文房具) ……7/30
- きつずあーと
(未就学児:4～6歳) 「おさかなすいぞくかん」…8/6
びじゅつかんであそぼう「スタンプぺったんアート」…9/3
- 特任館長講座 「江戸時代の美術と文化II—多彩な個性の開花」
…5/13より開催予定

秋田県立近代美術館 Akita Museum of Modern Art

〒013-0064
秋田県横手市赤坂字富ヶ沢62-46(秋田ふるさと村内)
TEL: 0182-33-8855 FAX: 0182-33-8858
E-mail: akitamama@rnac.ne.jp



ホームページは
「秋田県立近代美術館」で検索!
twitter、facebookもご覧ください。

交通案内
お車で | 秋田自動車道・横手インターより3分
バスで | 横手バスターミナル(JR横手駅東口)
～ふるさと村15分

秋田県立近代美術館ニュースARK85号(2022年下半年) 発行編集/秋田県立近代美術館 2023年3月31日発行

秋田県立近代美術館ニュース [アーク]

ARK

No.85
2022.10-2023.3



小田野直武「不忍池園」



佐々木裕久「鳥愚考-幻視」1983年

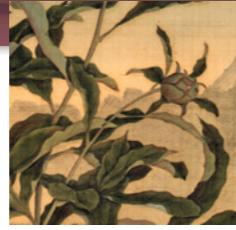


特別展

「秋田蘭画の世界

—『解体新書』から《不忍池図》へ—

2022(令和4)年9月17日(土)～11月13日(日)



本展は秋田魁新報社・ABS秋田放送との実行委員会形式で、その魅力を広く知ってもらうことを目標に開催しました。江戸中期洋風画の白眉として知られる秋田蘭画ですが、一般の知名度は高くないのが現状です。本展ではその成立過程にとって重要な作品・資料を紹介し、作品の美のみならず、分野横断的な魅力を感じてもらえるよう構成しました。新出資料には、小田野直武愛用と伝わる画材を、科学調査の結果もあわせて紹介させていただきます。ただし、この画材については未解明の顔料の調査

なども含め、今後も科学調査が必要です。各作品の制作背景や、モチーフ選びの意図、周辺作家たちの動向など、いまだ秋田蘭画には不明な点も沢山あります。全体を俯瞰しながら、改めてその深遠な魅力と課題を思う機会になりました。

本展では様々な方に、多大なご協力を賜りました。一つ一つの作品が運ばれ、展示室の中に並ぶ。それがどれほどの人の手と、理解によって実現できることなのかと、感慨をおぼえます。秋田蘭画が沢山の人の手によって、大切に受け継がれてきたことを深く感じられた機会にもなりました。ご協力くださった全ての皆様、ご来場の皆様に厚く御礼申し上げます。

(担当:鈴木京・秋田)



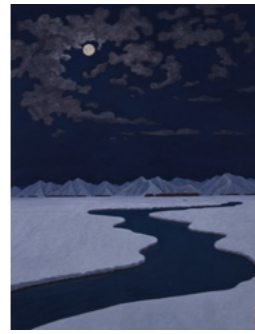
コレクション展第3期

山粧よそおいて山眠る —秋から冬の景色—

2022年10月5日(水)～2023年1月4日(水)



福田豊四郎《山の秋》(左隻)



桜庭藤二郎《山河》

中国北宋の画家・郭熙(かつき)の画論をもとに日本で生まれた季語「山粧う」と「山眠る」を展示タイトルとし、開催期間にあわせて秋から冬の景色が描かれた作品を紹介しました。秋田ゆかりの近現代の画家たちの作品を中心に、様々な表現された「秋」と「冬」を楽しんでいただけたのではないかと思います。

「山粧う」は紅葉で粧われた秋の山、「山眠る」は静まりかえった冬の山を意味する季語です。この対照的なイメージを持つ両者を第2展示室で対比させたところが、本展の見所の一つとなったと言えるでしょう。作品自体はもちろん、作品同士の取り合わせや配置の妙など、展示の細かな意図にまで気づいていただけたとしたら、学芸員冥利に尽きます。

(担当:秋田)



ギャラリートーク

【令和4年度】ネットワーク事業 2022年12月15日(木)～2023年1月24日(火)



令和3年度の第1期コレクション展「アートにみるイキモノたち」を、県立図書館の特別展示室用に再構成した展示です。身近に見られる小さなイキモノや古くから人々の生活や労働に関わってきたイキモノ、大自然の厳しくも美しい環境で生きるイキモノは、作家にとってインスピレーションの重要な源となっています。秋田ゆかりの作家の作品を中心にイキモノたちが表現された絵画、版画、写真などをご覧ください。 (担当:鈴木秀、北島)

コレクション展第4期

ウサギをさがせ!

Where is my rabbit?

2023年1月7日(土)～4月9日(日)

コレクション展の設定はいつも悩ましい…どんな構成なら楽しいか、作品にふさわしいか、などと考えています。今期は卯年にちなみ、当初はウサギの絵を集める展示を考えましたが、あれこれと考えあぐねるなか、収蔵庫で一羽のウサギを発見。それが本展のポスターに掲載した馬場彬の年賀状原画(1998



制作)でした。柔らかそうな足を踏み出し、走り去ろうとするウサギの姿に、このウサギを追いかけろというストーリーが思い浮かび、作品をレイアウトすることに。展示室内では、ウサギを追う架空の主人公「私」の物語をQRコードで設置し、読み取ることでセリフが出てくるようにしています。会期は4月9日まで。ぜひ馬場のウサギを追いかけ、足を運んでいただけましたら。

(担当:鈴木京)

開催中

企画展 横山津恵デッサン展

2023年2月11日(土)～4月16日(日)

秋田市出身の日本画家・横山津恵(1916-2007)のデッサン展を開催中です。同郷の日本画家・高橋萬年の教え「写生に徹せよ」を生涯守り通した横山は、50年に及ぶ画業で多くの作品とデッサンを残しました。本展では横山の日本画40点とデッサンや下図を63点、スケッチブックなどの資料数点を年代順に紹介しています。

あわせて高橋萬年をはじめ、館岡栗山や山口静恵といった横山と親交の深かった作家の作品も数点展示しています。また近年新たにご寄贈いただいた資料から、最初期の展覧会出品作《髪》の下図や、30歳頃のデッサンなどが今回初お披露目となりました。2・3月にはギャラリートークを開催し、たくさんの方にご参加いただきました。

(担当:藤井・保泉)



「伊藤由美子版画展」
10月8日(土)～11月13日(日)

下半期のふれんどリーギャラリーでは、美術館教室と連携し、講師の大関智子さん(日本画家)と伊藤由美子さん(版画家)の展覧会を開催しました。

大関さんの作品は、雲肌麻紙の下地を整えた上から描画した繊細な作品でした。画面全体が光っているような不思議なまぶしさや清潔感。さらに視触覚を刺激するような盛り上げの描写が加わり、「観察」するのも楽しい作品でした。伊藤さんの展示では水性絵の具を用いた木版画で、柔らかいペールトーンが印象的な作品が並びました。力強い主版の印象が強い木版画ですが、表現の探索によって様々な顔を見せるものだと感じます。

両者のメディアは違いますが、どこか、冬の張り詰めた寒さの中の風景に通底する美しさも感じた展覧会でした。 (担当:鈴木京)

報告

「ふれんどリー」展示



「大関智子 New Wild」
9月4日(日)～10月5日(水)